



前小だより

ひたちなか市立前渡小学校
令和4年度学校だより
No.10 11月号
令和4年10月29日(土)

今を変えれば 未来が変わる

『声』に出して あいさつを しよう!!



10月11日(火)、始業式の日以後期の生活の柱として児童に話をしたことは、「あいさつを『声に出して』しよう」ということです。特に、毎朝の立哨時にもっと元気がほしいと感じ続けてきたので、前渡小の全児童・全教職員に改めて呼びかけました。あいさつを声にして発するには、そうできるだけのエネルギーが体内に必要です。活力がみなぎっていないと、中々、あいさつは声になりません。

この話をした翌日からの様子ですが、少しだけ、意識が変わったかなという印象を受けました。会釈をする児童がやや増えた、あいさつを声に出してする児童も少しは増えたような気がします。これまで元気だった子たちは、さらに元気になりました。とにかく気持ちがよいです。

あいさつを声に出してしようという話を聞いても、すぐには変えられない子もいるかもしれませんが、気持ちが変わらなくても 行動を変えることで、内面を変えるきっかけにはなります。行動に移さないと、何も変わりません。とにかく前渡小の基調として掲げたのは、

『今を変えれば 未来が変わる』

です。まずは自分が変わる、そうすると 周りも少しずつ変わってきます。声に出してのあいさつを続けることで より良く自分を耕し、仲間と声をかけあう、みんなのさわやかな笑顔があふれる 明るい学校にしたいです。

Jack O'Lantern



毎年この時期になると、前渡小そばの加藤洋品店(かどや)さんが、大きなPumpkinを届けてくれます。今年は10/5に届きました。到着時はのっぺらぼうでしたが、本校職員が装飾をしました。ちなみに帽子の制作は、JoeとMitchの二人のAETの先生です。ありがとうございました。さて問題です。このカボチャの重さは何kgでしょう。

書いた文字を見て 自分と向き合える 書写の授業から



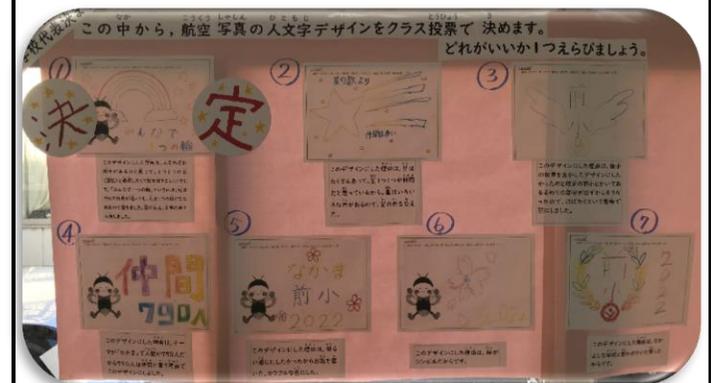
この写真は5年生、10月26日(水)2校時、書写の授業です。課題は「道」、手本をもとにしての臨書、半紙一枚の一面いっぱい、大きな一文字を堂々と書いています。人それぞれに持ち味、個性がありますが、5年生ともなると実に見事なもの、作品と呼ぶに相応しい出来栄です。特に感心させられたのは課題と向き合う その姿勢です。起筆から収筆にいたるまで、とめ、はね、はらい など一筆ごとに気を配っているのが伝わってきました。特に、最後に自分の名前を書き終えるまで 気を抜くことなく、丁寧に書き上げていました。書かれた「書」は、全体・中心・余白などのバランスが取れていて、気が脈々と流れているようです。白紙の上に生み出されたものは、素直な心模様の表れであり、ただただ「すばらしい」の一語につきます。

字を書くのが苦手だと、美しい文字は憧れの的です。いつかは上手に文字を書けるようになりたい と子どものころから思い続けてきましたが、満足のいく文字は、鉛筆でさえ未だに書けるようになりません。この度、この授業を見て、既に、十歳あまりの5年生にかなわない、と つくづく思いました。子どもたちの未知数の素質を目の当たりにして、その才能をどこまで伸ばせるか、学校教育の使命の大きさを改めて感じたひとときでした。

航空写真の撮影

去る10月11日(火)、後期始業式の日です。夏休み前に考案し、9月1日に児童に周知した航空写真の撮影が、好天に恵まれ、予定通り執り行うことができました。

図案の決定にあつては、全校児童に呼びかけ、各学級、各学年で最終候補に上った七つの作品から、投票で次の①に決定しました。



原案がどのように出来上がったか、後で見比べていただければと思います。

今年は創立133周年、そして、ほたるの森日本一 & ひふみ記念の年です。印象に残るであろうワクワクとした体験を、前渡小のみんなで共有できた後期初日でした。

10月24日(月)、5年生の学年集會に招かれました。再来週の11月9日、10日にせまった宿泊学習に向けての集會です。「宿泊学習を成功させるために大切なことは何だろう？」の問いかけに、二人の児童からの発表がありました。一人目の柴田さんは、

☆ 「みんなが団結したら成功だ」と思う。」

二人目の佐々木さんは、

☆ 「みんなが協力して、成長したら成功だ」と思う。」

とのことです。とてもすばらしい意見でした。二人の考えを聞いて、とても安心し、嬉しくなりました。あとは体調を整えて、みんなそろって白浜の地へ出向いて、楽しい思い出を創りあげましょう。



前小(裏)通信

生活の柱 : 時間と空間それから仲間、三つの『間(あいだ)』を大切に

Key Word : 間が大事 笑顔さわやか ワクワクと 宝は仲間 理想に向かって



1年生

1年生は、生活科「あきとなかよし」の授業で、お面作りを行いました。児童達は、秋になって色づいた落ち葉や、まつぼっくり等の木の実に貼り付け、思い思いに人間や動物の顔を作っていました。まだ使い慣れないポンドに苦戦しながらも、「かわいい顔ができたよ。」「こんなにたくさん拾って来たよ。」と、楽しみながら制作していました。

(※. 材料は、お家の方が児童と一緒に拾い集め、持たせてくださったものを使用しています。)



3年生

3年生は、10月24日と26日に、那珂湊地区にある神敷台消防署へ、社会科見学として訪れました。初日は1・2組、二日目は3・4組の二クラスずつに分かれての訪問です。

普段、間近では見ることのできない、はしご車やポンプ車、救急車などを見ることができました。また、災害の現場に出動するときの行動の仕方や、そのときに着る服の特徴について話していただくなど、消防士でなければ分からない貴重なお話を聞くことができました。

本物の消防車を目の前にした子どもたちが、目を輝かせながら見ていたのが印象的でした。



4年生

4年生向けに、ひたちなか・東海クリーンセンターから、清掃センター内の紹介動画や、分別ゲームのセットが届きました。通常の見学では見られない、貴重な現場の様子を動画で見ることができました。多くの児童は、分別ゲームで、乾電池を燃えないごみとして分類しましたが、資源物としてリサイクルできることを知り、驚いていました。授業を通して、家庭で出るごみの分別が大切なことや、レジ袋ではなくエコバッグを進んで使うことについて改めて考えることができました。

10月に入って、最初に遠足に出かけたのは2年生、日立市にあるシビックセンターへと足を運びました。体験活動がたくさんあるので、児童たちは大満足、館内を走ってしまいそうになる小学生もいたようです。無事、ほぼ予定通りの時刻に帰校しました。グラウンドに戻り、校舎を目にするやいなや、「学校ただいま～」と声に出してのあいさつをする2年生が何人もいて、微笑ましくなりました。



2年生



前小だよりNo.7_7月第2号で紹介した学校訪問クラシックコンサートを、予定通り10/7、前期終業式の日の午後に行いました。演奏に見えた方々は、“Film Brass”の5人です。

4・5・6年生は、なまの金管楽器の音を聴き、中には体を揺すりながら演奏に酔いしれている児童が何人もいました。

本校卒業生の飛田遥香さん(←左の写真)からは当時の話、また、今に至るまでのきっかけなど

についても話を聞くことができ、キャリア教育の一環として、将来について思いを巡らす、よい機会となりました。



4・5・6年生



5年生



Science kids! の5年生です。5年生の理科は、本格的な実験・観察活動がだんだんと増え、子どもたちは理科の授業が大好きです。「条件を整える」を合言葉に、日々取り組んでいます。25日、26日の二日間にわたって、茨城大学教授の齋藤先生がいらしゃって、「川を流れる水の秘密」の授業をしてくださりました。最初に「日本の長い川ランキング」の問題がありました。一番長いのは…「最上川!」「利根川!」「信濃川!」「四万十川!」…と、候補がいくつも上がりました。1学期に学習したはずですが…

続いて、流水実験器を使って、流れる水にどのような働きがあるのかを調べました。水を流していくと、「岸がどんどん削れてる!」「ゴールのあたりが洪水みたいになってる!」など、気づきのたくさんある授業となりました。

専門的な話をたくさんしてくださったので、児童は興味津々でした。また、齋藤先生と一緒にできる授業を、楽しみに待っています。